

## 第91回 身心変容技法研究会

# 美術・芸術における身心変容・自然変容

土中絵画の表現と祈りは、心と身体及び自然にいかに関係させる事ができ、土の神事となりうるか。  
顔の美術の表現と研究は、人間と自然の未来にいかに関係させることができるか。

2023年8月5日 鈴木 寅二啓之  
Toraji Hiroyuki.S

～ 発表の流れ（100分） ～

① 表現の原点（10代～20代前半の作品より）

② 土中絵画に関して

③ 猿田彦土中神社に関して

④ 顔の美術に関して



美術・芸術における身心変容・自然変容

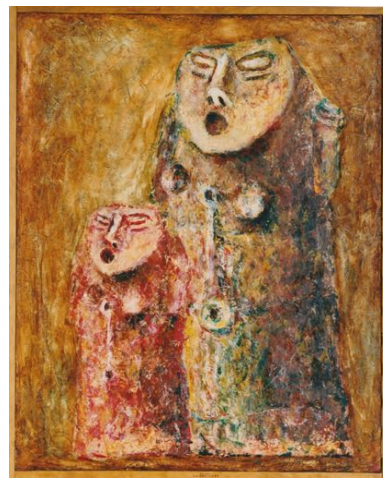
土中絵画の表現と祈りは、心と身体及び自然にいかに関与させる事ができ、土の神事となりうるか。

顔の美術の表現と研究は、人間と自然の未来にいかに関与させることができるか。

# げん 玄の世界

20代前半 縄文探究から土偶スケッチ・油絵表現

→ 土中絵画



# さい 彩の世界

極彩・サイケ 15歳～22歳の作品群

→ 顔の美術



## 〈土中絵画へのきっかけとはじまり〉

### ギャラリストの言葉

油絵で描いた土偶の絵画よりも、本物の土偶の方がエネルギーが高い。

### 縄文人の意識

#### 縄文人の循環再生の意識

この世とあの世はあべこべ。

亡くなった母胎を弔うために土偶を制作し、あえて壊して土に埋めることにより、あの世では元気になる。

子どもが生まれると栗の木を植えて、それを食べさせて成長し、子どもが大人になる頃にはその栗の木で家をつくる。

### 地の神様

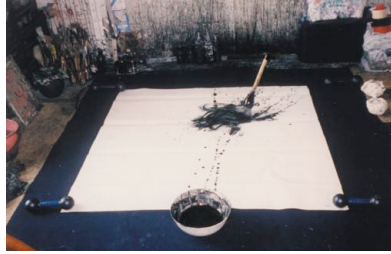
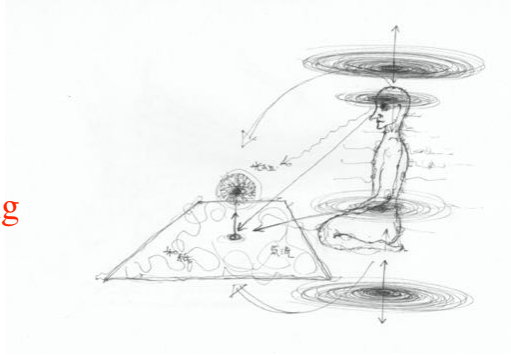
故郷の静岡県磐田市の実家の庭には『地の神様』の祠を祀る。

ご先祖様は亡くなって100年経つと大地にもどり、地の神様となるという伝承。

描いた絵画を土に埋めることによって、縄文の意識と土中バクテリアの心を宿し、地に入り天に昇り宇宙全体と繋がるのではないだろうか。

# 〈土中絵画制作過程〉

描く  
Drawing



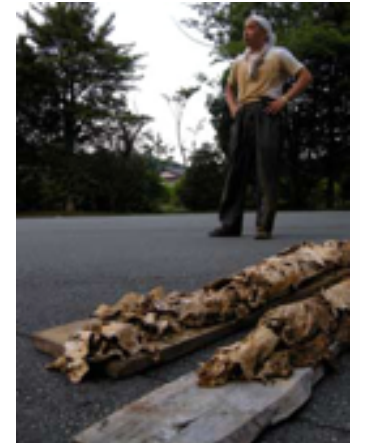
穴掘り  
Digging the hole



絵画埋め  
Burying the paintings

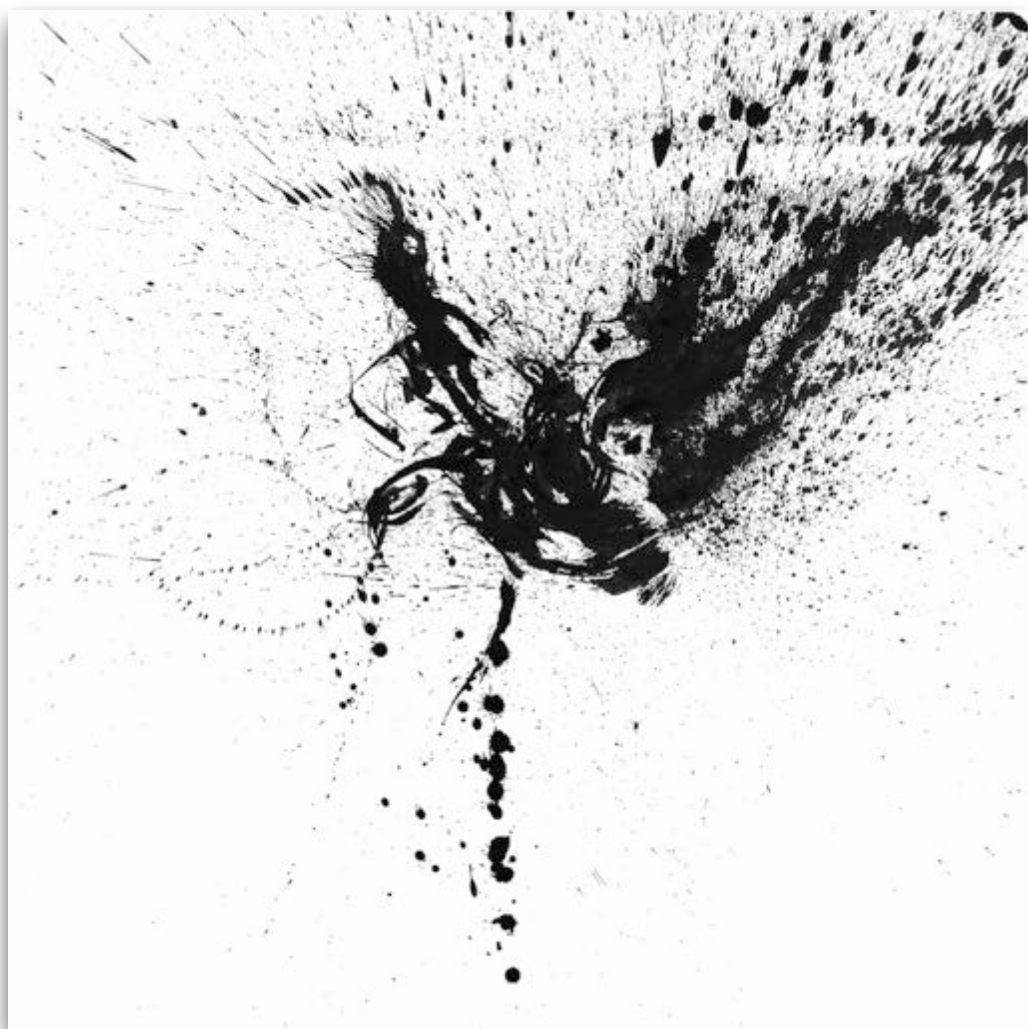


絵画掘り出し  
Unearthing the paintings

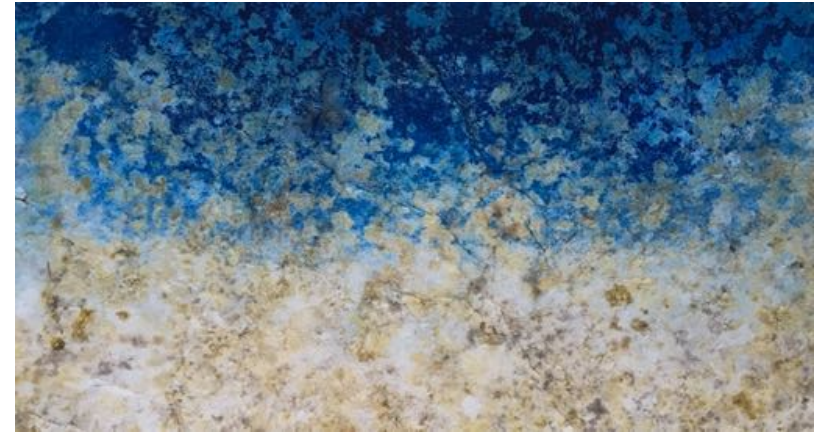


土中絵画





土中絵画 神饌・天目





場の美術としての土中絵画

第1回・第3回 大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2000・2006



奥多摩インスタレーション1994  
自然と人間と芸術の螺旋融合実験



第3回 大地の芸術祭  
越後妻有  
アートトリエンナーレ  
2006



第1回 大地の芸術祭  
越後妻有  
アートトリエンナーレ  
2000



第一回原始感覺美術祭  
土中絵画 八百万神讚歌  
220 cm×220 cm  
木崎湖畔縄文遺跡

伊勢・猿田彦神社本殿裏 猿田彦土中神社奉納 2008年10月12日



## 猿田彦土中神社

猿田彦大神フォーラムの研究助成企画として

伊勢・猿田彦神社境内に猿田彦土中神社を奉納する美術プロジェクト。

猿田彦大神フォーラムは当時の宮司であった宇治土公貞明様（故人）と鎌田東二先生・龍村仁監督・島藺進先生・櫻井先生を中心に猿田彦大神とはどのような存在なのかという事を学術的・芸術的に考えようとするもの。

2008年10月12日 猿田彦土中神社奉納 奉納舞 ～啓行き神楽～ 舞手 鈴木邦江

2009年8月 ポレポレ東中野 9月名古屋シネマスコーレにてドキュメンタリー映画（64分）劇場公開

猿田彦土中神社～鈴木寅二啓之 天地（あめつち）の軌跡～

2009年10月 猿田彦土中神社解体

## 私の考える神事とは

自然に内包され自然の一部である人間。 産業革命以降、自然を支配しようとする人間。

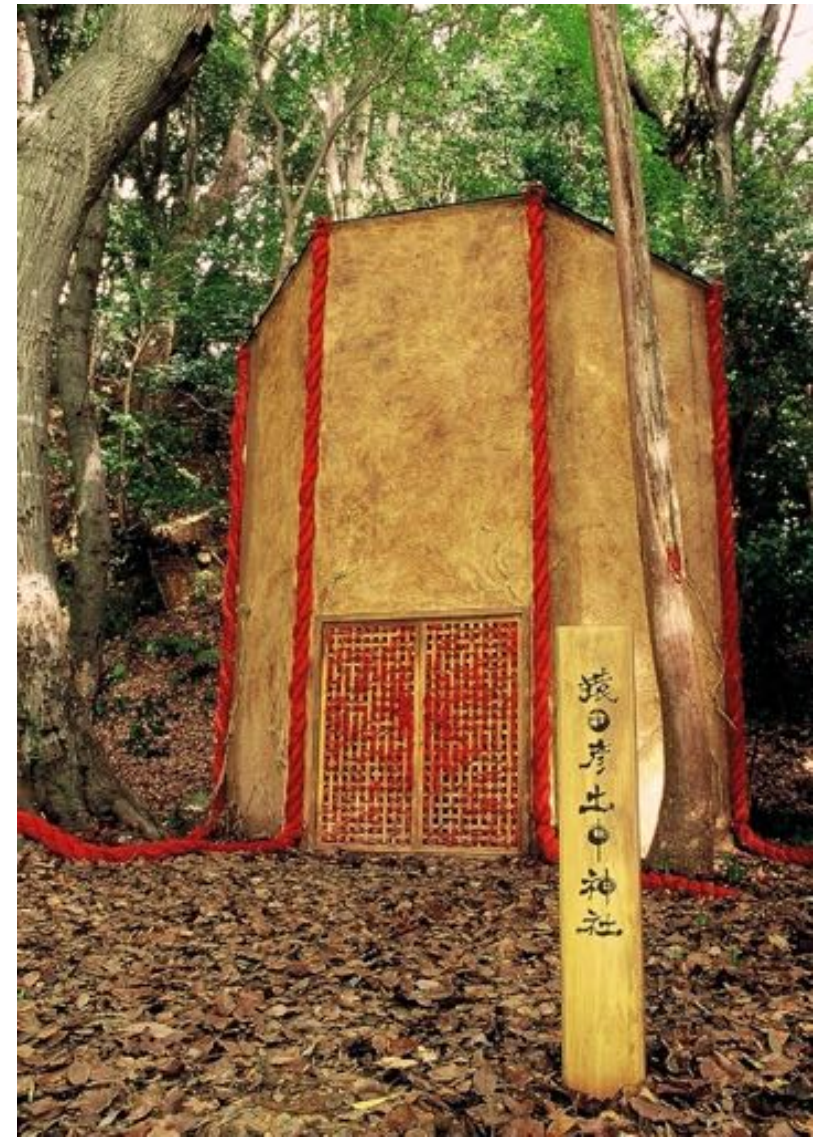
そのような中で私の考える神事とは、

自然への畏敬の念を持ち自然と人間また神（宇宙そのもの）と繋がろうとする儀礼であると考えます。

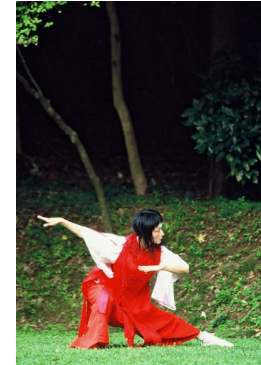
龍村仁監督 『 微生物とは原初の神であろう 』

アーキア（人間の祖先の微生物）      ピカイア（初めての脊椎生物）

伊勢・猿田彦神社境内 猿田彦土中神社 2008年10月奉納



猿田彦土中神社 奉納～啓行き神楽～舞手 鈴木邦江



☆伊勢・猿田彦神社 土中神社奉納 2008年10月



猿田彦土中神社 縄染め・しめ縄・土壁作り







1. 環境作り作業：子供たちとの共働 ④

## 猿田彦土中神社考

鎌田 東二先生（京都大学名誉教授）

21世紀の最大の課題は環境や生命の循環回路をつないでいる「生態智」を、どのように具体的に生活や生き方の中に取り入れ、活かすことができるかにあるが、鈴木寅二啓之氏の「画行」は「土中絵画」の画法も含めて、そのような循環と共環を美術作品として表現する「生態智」に満ちている。その21世紀的課題を背負う「画行」の行方を見護り、応援したい。

龍村仁監督 故人（ガイアシンフォニー地球交響曲映画監督）

神殿に掲げたその“絵”は天空に無限に偏在する宇宙の意志と大地を結ぶメディアとなった。地上にのこった目に見える“絵”と土に還った目にみえない“絵”は共に響き合いながら鈴木【祈り】を未来の全ての生命（いのち）に届けてゆくだらう。

☆伊勢・猿田彦神社 土中神社奉納 2008年10月～2009年10月

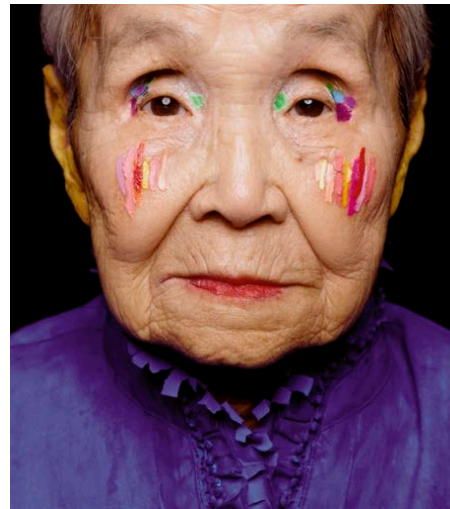
☆ドキュメンタリー映画 猿田彦土中神社～鈴木寅二啓之 あめつち 天地の軌跡～

2009年8月ポレポレ東中野 9月名古屋シネマスコーレ

【顔の美術】



【顔の美術】



## 【顔の美術】

顔の美術とは、美しい顔に向かう術であり、その表現である。

美しい顔とは何か？

私の考える美しい顔とは、生き生きとした顔であります。

淡々と丁寧に自らの道を歩んでいる人の顔は本当に生き生きとした美しさを感じます。

この生き生きとした美しい顔に向かうための要因としてあえて順序をつけるならば、

一番目には、**生き様**であると考えます。

一心に畑に向かい丁寧に農作業をする人の顔、人に優しく正直に生きている人の顔、自身の可能性を信じ邁進している人の顔など、本当に美しく感じます。

次に二番目に**食**、三番目に**身体**の**健康**とがあり、この二つは同等と考えます。

身体に良い食事を摂る事を心がけている人の顔、健康に気を配り楽しく体を動かしている人の顔も美しいと感じます。

四番目にやっと外的要因である顔に施すいわゆる**化粧**や**肌の手入れ**によるものと考えます。

外側から顔に色や形を施すことによって顔の美の変化を感じ、その事によって内面の喜びとなり、生き生きとした美しい顔へと向かっていくと考えます。

このようにあくまで顔における表現は、四番目の要因に過ぎないと考えますが、表現の意識や方法によっては、ただメイクアップや肌を整えることだけによらず、人間の本質的な美や価値に迫る”美しい顔”に向かう事ができるのではなかろうかと思っています。

顔の外的要因の美しさの中で最も大切なのは、**顔の中に流れる空気感**の滞りを軽減し全体の調和を整えることにあります。

美しい絵画や建築は全体の構図や構成、色彩・形状・質感などの動きや方向性によって全体の空気感を整え美しい調和を生み、音楽は旋律やリズムによって滞りのない美しいハーモニーが生まれていると思います。

顔においても同じ事がいえ、肌の見た目の重量感・色彩の調和・形の調和・質感の調和によって、顔の中に流れる空気感を整える事ができ、顔の美しさに向かうのであろうと考えます。

また、いわゆる化粧においても外面の装いによって内面の美しさに向かう事もありますが、ファッション的流行や機能性に左右される化粧と、顔の美術とは領域の違いがあると考えます。

私の提唱する顔の美術という新しい領域は、生き生きとした心から自然と立ち現れる顔の本質的な美しさに向かおうとする術であり表現であります。

## 【顔の美術百伝】

顔の美術百伝とは、

鈴木寅二啓之の顔の表現40年における、

描法（技術や表現方法等）・表現考（思考や発想また表現の捉え方等）・観法（観察の仕方等）を

100の手法としてまとめたものであります。

顔の中に流れる空気観を読み解きながら表現することで、顔の美しさに向かう手法であって、

顔を自然に美しくする方法や顔の創造表現における基となり、

人間の象徴的部位である顔の本来の価値を再構築し、顔の新しい美の価値を見つけようとするものであります。

また、この顔の美術百伝は、顔の表現者のみならず美容家や芸術家など、美や美意識を必要とする

表現者の一助となる手法であるとも考えます。

凡例

其の三〈散色融合色調和描法〉

肌というものは色々な色調が混ざっているものである。ゆえに顔に自然な状態で色を入れる際はグラデーションが効果を示すが、

時としてあえて“ムラ”（散色）を加える事により、グラデーション以上の自然な美しさとなり、

顔の美しいリズムと調和が生まれるという描法。

其の十八〈差し水創造内包描法〉

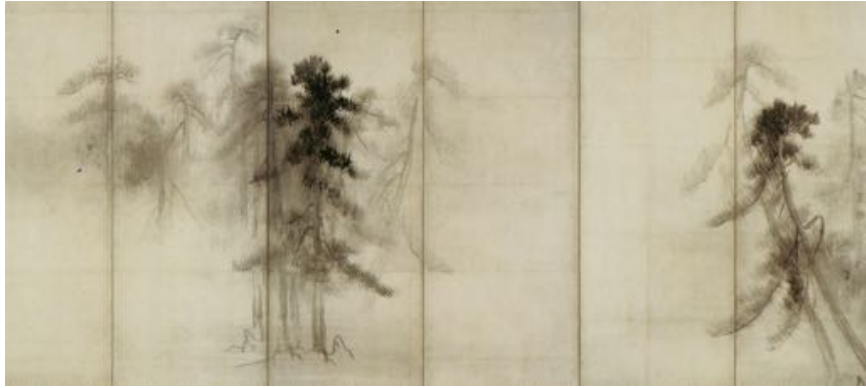
蕎麦を茹でている際に湯が吹きこぼれそうになった時に“差し水”を入れて全体を落ち着かせる。

顔の表現においても仕上がり前の段階で、差し水を入れるが如く全体に同じような薄い色調をまとわせる事で、

全体のリズムが統一的になり静けさが生まれる。またこの方法を何度か繰り返す事で表現の深みと調和も生まれるという描法。

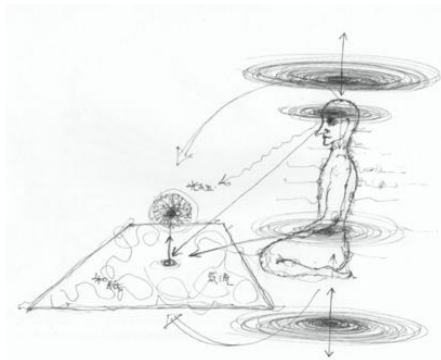
※顔の美術百伝は、受講生の技術及び能力の段階に応じて伝える為に順不同で行いますが、2023年現在で100の内65の内容を講座（講義・実演・実習）で行いました。

## 美術・芸術における身心変容



### A 芸術にひれ伏す体験

圧倒的な芸術表現作品により自身の体の変容を感じる。



### B 自身の表現過程における体験

#### ①螺旋体験

螺旋の神民の制作時に体の内部が螺旋のような状態になり制御が難しくなる。

#### ②空眼の体験

墨を使い土中絵画の原画の制作時に墨の飛び散りがスローモーションのように見え、その状態を俯瞰から見ているような感覚体験。



## 美術・芸術における自然変容

土中絵画制作過程における土との関わり  
実家の畑での経験  
祖母の家の庭の畑に絵画を埋める



祖母が元気で土の世話を  
してくれていた時の土中絵画

土中からスムーズに  
絵画を掘り起こせた



祖母が母屋に移り祖母が  
いない畑での土中絵画

かなり苦戦をしながら  
土中から絵画を掘り起こした



## 顔における身心変容・自然変容

イメージフォームエリア 顔の認識を行う脳の中心部にある特別な部位  
7歳くらいまで特に活発に活用する。

昨今では、顔をマスクで隠したり、仮想空間やSNS上で別の顔やアバターとして存在する中で、  
逆にリアルな実際の顔の価値や意義が問われまた増していくように考えます。

『丸より顔』展      1999年 フロムハンドエクスポジション  
東京 代官山ヒルサイドフォーラムにて開催

顔の美術      顔の美術百伝108時間（フロムハンドメイクアップアカデミー）  
顔の美術百伝（鈴木寅二啓之寺子屋 美術学舎 横浜）

大阪 羽衣国際大学 『装いとメイクアップ』～人間にとっての顔の価値～授業 全15回 非常勤講師

子ども創造美術教室（横浜）  
節分のお面作り



其の一〈視感覚重力柔和描法〉	其の二〈極彩玄玄表現考〉	其の三〈散色融合色調和描法〉	其の四〈鳴々物語観法〉	其の五〈視点変幻誘水描法〉	其の六〈垂直誘導幻視描法〉
其の七〈付帯物基点創造描法〉	其の八〈口述伝達創造描法〉	其の九〈二次元奥行観法〉	其の十〈顔対峙導入表現考〉	其の十一〈肌幻視形状描法〉	其の十二〈中空螺旋右描法〉
其の十三〈中空螺旋左描法〉	其の十四〈二点幽体ゆらぎ観法〉	其の十五〈自在背景透影描法〉	其の十六〈民族香気調合描法〉	其の十七〈無数空流点観法〉	其の十八〈差し水創造内包描法〉
其の十九〈流曲線空気描法〉	其の二〇〈玉響円円表現考〉	其の二一〈龍瀧雲海表現考〉	其の二二〈縦縦線横点空気描法〉	其の二三〈呑顔対峙導入描法〉	其の二四〈筆触断面感描法〉
其の二五〈美酔制御観法〉	其の二六〈散形融合形状描法〉	其の二七〈古代想起観法〉	其の二八〈自然美空流△描法〉	其の二九〈傾奇道具表現考〉	其の三〇〈肌肌透色描法〉
其の三一〈自然美空流○描法〉	其の三二〈装飾柔和描法〉	其の三三〈白白深淵表現考〉	其の三四〈点描微塵構築描法〉	其の三五〈形而上円環観法〉	其の三六〈直線様式調和描法〉
其の三七〈叙事詩夢想表現考〉	其の三八〈無考無思感勘描法〉	其の三九〈静謐風観法〉	其の四〇〈彩色遊戯描法〉	其の四一〈変奏調律表現考〉	其の四二〈交響構築描法〉
其の四三〈類似非非表現考〉	其の四四〈顔蜜存在観法〉	其の四五〈基点拡張表現考〉	其の四六〈形無空間構築描法〉	其の四七〈色無空間構築描法〉	其の四八〈散質融合調和描法〉
其の四九〈自然美空流□描法〉	其の五〇〈創造記憶表現考〉	其の五一〈呼顔観法〉	其の五二〈素原子発掘描法〉	其の五三〈八衢集約表現考〉	其の五四〈自然美完熟開放描法〉
其の五五〈自然美熟成集約描法〉	其の五六〈配列整然表現考〉	其の五七〈肌発感触構築描法〉	其の五八〈比較点点運行観法〉	其の五九〈あべこべ混沌表現考〉	其の六〇〈速続牛歩描観法〉
其の六一〈静遅読瞬描観法〉	其の六二〈図像転換塗ふ表現考〉	其の六三〈自然美賛美螺旋描法〉	其の六四〈色相環環瞑想描法〉	其の六五〈線描構築描法〉	其の六六〈円描構築描法〉
其の六七〈点点瞑想描法〉	其の六八〈永劫線瞑想描法〉	其の六九〈極小視点描法〉	其の七〇〈極一筆描法〉	其の七一〈肌練金描法〉	其の七二〈響鳴波波観法〉
其の七三〈天地瞑想描法〉	其の七四〈柔体柔酔描法〉	其の七五〈未意識開放表現考〉	其の七六〈証肖像画描法〉	其の七七〈連綿余韻表現考〉	其の七八〈肉体拘束不自由描法〉
其の七九〈創造枯渴描法〉	其の八〇〈音感変換描法〉	其の八一〈接眼陽炎描法〉	其の八二〈神頭自然一体表現考〉	其の八三〈異性質認識表現考〉	其の八四〈光源光環観法〉
其の八五〈喚起登頂描法〉	其の八六〈眉眉点波紋描法〉	其の八七〈対極形態変幻描法〉	其の八八〈幾何学異調和表現考〉	其の八九〈感感即興観法〉	其の九〇〈心眼観法〉
其の九一〈循環流流観法〉	其の九二〈天流丹田描法〉	其の九三〈地流丹田描法〉	其の九四〈神饌表現描法〉	其の九五〈点基点描法〉	其の九六〈魔法古古表現考〉
其の九七〈自自対峙観法〉	其の九八〈多元世界表現考〉	其の九九〈手伝顔伝描法〉	其の百〈一顔観法〉		